

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893600027
法人名	株式会社フォースコーポレーション
事業所名	グループホームゆうなぎ
所在地	愛媛県喜多郡内子町城廻613-1番地
自己評価作成日	平成 25 年 9 月 5 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 10 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域とのつながりを大切にし、毎月サロンとの交流を行ったり、隣の保育所との交流も出来る範囲で行っている。 ・主治医との連携を図り、健康管理に十分気を付けている。 ・併設のデイサービスがあり、大きい行事の時には交流を行ないコミュニケーションを取っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

参道のような坂道を上がると保育園越しに桜色の建物の事業所が見え、山里の風情を色濃くした中に、事業所の桜色が優しく華やかな雰囲気醸し出している。事業所のケアも外壁と同様に優しく、利用者の命をお預かりしているという厳しさもあり、専門職としての心構えが感じられる。事業所は事業形態の変遷はあったが開設後9年目を迎える。管理者とユニットリーダーは開設後からずっと勤務しており、ケア体制に「積み重ね」という深みを感じられる。勤務が長く続くことは人材を大切にしていることの表れである。事業所では利用者の終の棲家を目指しており、看取りケアの実践が不可欠と考えている。「経験は積んでも、その度に教えられます」という管理者の言葉には重みがあり、利用者の生活を充実させたいと真摯に取り組んでいる姿勢が伺える。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
		○	3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ゆうなぎ

(ユニット名) 南 棟

記入者(管理者)

氏 名 緒方 久美子

評価完了日 平成 25 年 9 月 5 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 毎朝、朝礼で復唱を行っている。 廊下、各棟の目につく所に掲示して、職員が共有し、意識付けに繋げている。	
			(外部評価) 管理者だけでなく職員との話し合いの中にも「理念」という言葉があり、事業所の理念を介護の基本としていことが伺える。また、理念の実践の具体化のために、職員一人ひとりのスキルに合わせた目標を立て、利用者に接している。理念に掲げている「笑顔」を、職員はその奥深い意味を問いかけながら日々ケアに携わっている。理念の真意を追い求めている情熱を感じることができる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会に入っており、地域の行事にも出来るだけ参加出来るようにしている。 毎月サロン交流、保育所との交流を行っている。ゆうなぎの行事に地域の方も参加して頂いている。 ホームの周りが地域の方の散歩コースになっており、顔を合わせ挨拶をしたり、野菜を頂くこともある。	
			(外部評価) 過疎化や高齢化の波が押し寄せている中、地域の社会資源の役割を担っている事業所である。「近隣住民にはお世話になっているので」と管理者は言うが、事業所の催し物を地域行事にまで育てている活動は、地域と共に事業所を運営している思いが感じられる。職員と共に積極的に地域で活動していることが伺える。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 町内のグループホームと連携を図り、年に1度、認知症講演会を行い、好評を得ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 定期的に会議を行い、利用者の状況、現状を報告している。 講演会、運動会、ゆうなぎ祭り、救命講習会、感染症、外部評価結果報告、認知症講演会、バーベキューなどを行っている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、民生委員、区長、保育園職員、町担当者、地域包括支援センター職員等の参加を得て開催している。参加者に普段の事業所を知って貰いたいと考え、利用者と一緒の昼食会などを同時に開催する工夫をしている。また、参加者は利用者と一緒に地域行事に参加し、職員の支援する姿への評価は、利用者へのサービス向上に直結していると言える。会議には認知症の講演会などを取り入れ、参加者にも満足してもらいたいとの管理者の気持ちを感じられる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じて市町村との連携を図っている。推進会議、内子町グループホーム連絡会に参加して頂いている。入居者の入退居時、更新時、介護計画書等を提出し、情報を提供している。	
			(外部評価) 町内に7つのグループホームがあり、町担当者が利用者の状況を把握しやすい数である。事業所の開設は早く、町担当者と一緒に地域にグループホームという介護スタイルを定着させ、相互の協力体制を築いている。事業所は、地域の社会資源としての役割を担っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 入居者の方が自由に生活出来るよう環境を整えている。日頃より拘束をしないよう職員同士が取り組み、話し合いを行っている。安全面に配慮しながら自由に生活出来るように心掛けている。研修に参加し、職員会、カンファレンスで報告し、勉強会を行っている。	
			(外部評価) 事業所では笑顔と見守りで「身体拘束ゼロ」を実践している。「笑顔で安心を、見守りで安全を」をモットーとして職員は介護サービスを提供しており、事業所は開放的で利用者の笑顔からも確認することができる。新任職員には研修制度があり、利用者にとって精神的な拘束もあることを教え、声かけの重要性を認識させている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 入居者に対しての言葉遣いや介護態度についての話し合いを行っている。小さな内出血、アザなど、ヒアリハットを提出し、カンファレンスにて全員で話し合い、改善に努めている。不適切な行動を見た時は、その場で職員同士で注意するように心掛けている。職員同士のコミュニケーションを図り、虐待のないケアに努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 家族からの要請がある時は管理者が対応している。今後必要時は、関係機関との連携を図っていきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には契約書の説明を行っている。利用者、家族の思いを聴いたうえ、事業所のケアに関する事、利用料金、起こりうるリスク、看取りに関する事、医療連携体制についても説明を行い、同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会時に意見、要望を聴くようにしている。家族会に参加して頂き、意見、要望を聴いている。介護報酬、契約変更時には家族に同意を得ている。 (外部評価) 管理者は、ある程度入居期間が過ぎると家族等からは意見がなかなか出ないことを長年のキャリアから承知している。職員から家族等に相談を持ちかけ、話しやすいよう努めている。管理者が家族から親身に話を聞いている姿から、職員は家族の話を傾聴することの重要性を学んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 代表者と直接職員が話す機会はないが、管理者を通して意見や、提案、要望を伝えている。改善できる所はしてもらっている。 (外部評価) 管理者は職員と同じ立ち位置で、現場でのケアを話し合うことを大切にしている。話し合いとは一緒に考えることであり、職員の意見を尊重している。新任職員にも話しやすいように対応しており、出された意見は集約して運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は現場に来る機会が少ないため、職員個々の努力や実績は把握されていない。人員の余裕がない為、有給は取れないが、希望休、時間外の支給はある。休憩を充分取れないことも多い。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 皆が研修会に参加出来るよう努力はしているが、人員が少なく余裕がない為、十分研修会に参加できていない。 資格取得のための支援をしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 代表者は機会が少ないが、管理者、職員は勉強会、運動会、グループホーム連絡会に参加し、意見交換を図っている。他の市町村の同業者との連絡を行い、情報交換を行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前には、自宅、病院等に事前調査に行き、面接を行っている。本人の生活状況、身体状況、服薬、家族関係などを聴きとり、出来る範囲で情報を得ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前にはセンター方式のアセスメントを渡し、記入して頂ける方には記入して頂いている。記入できない家族には、聞き取りを行い、本人、家族の要望を聴いている。職員にも情報を伝え、事前に話し合っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族の思いを十分に聴き、居宅のケアマネからの情報提供頂き、必要なサービスに繋げている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「笑顔で穏やかな暮らし」を理念にしている。職員は利用者と一緒に不安、喜び、楽しみなど本人の思いに共感し、理解している。利用者のペース、状態に合わせ、出来る事、好きなこと、馴染みの生活などを把握しながら、関わりを持つようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には、居室や別室でゆっくりお話しできるようにしたり、行事への呼びかけ、本人の状況を伝えたり、介護記録を見て頂いている。毎月お便りを書き、状況をお伝えしている。面会時は笑顔や言葉遣いに気を付けて対応している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 親戚、知人の面会や電話など、自由に出来るようにしている。出来る方は馴染みの美容室に行かれたり、自宅に帰り過ごされたり、敬老会に参加される機会もある。 (外部評価) 事業所での生活が長い利用者は、どうしても馴染みの人や場との関係は希薄になってくる。職員は、利用者が近隣住民や併設しているデイサービスの利用者との新しい馴染みの関係ができるよう取り組んでおり、親しむ機会を作るようにしている。デイサービスの利用者に積極的に話している職員から、利用者の馴染みを増やそうとする姿勢が伺える。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の顔なじみの関係は出来ており、助け合いながら仲良く自由に過ごされている。個人の性格を考慮し、気の合う利用者同士で過ごせる場面作りをし、利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて相談があれば家族に連絡している。年賀状、暑中見舞いを送っている。推進委員の協力をお願いし、継続して参加して頂ける方もある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃のケアの中で本人の思いを知ろうとしている。センター方式の「私の姿と気持ちシート」を利用し、本人の思い、不安、苦痛、願い事をききとり、本人の思いを知ろうとしている。意思疎通困難な場合は、家族の意見を取り入れている。	
			(外部評価) 何気ない日々の会話の中から利用者の生活歴を聞き取り、職員は自然な形で利用者の背景を踏まえて、イメージ像を深めるよう取組みをして、職員間で共有している。また、新任職員にも伝え、共有している。「重度化により言いたいことを言えない、言わない利用者が増えてきています」という管理者は、現状分析をした上で対応策を考え、利用者の思いや把握をするよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前に本人の思いや生活状況を家族に聴いたり、ケアマネより情報収集している。生活の流れをそのまま支援できるように取り組む努力をしている。自分の今までの馴染みの物は自由に持ち込まれている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の生活リズムを把握し、健康で安全な生活が出来るように努めている。個々の気付きノート、申し送りノートを活用し、職員全体が把握できるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、家族に思いや意見を聞いている。定期的にカンファレンスを行い、見直しを行っている。更新時期には本人、家族の思いを聴き、ケアプランを作成している。	
			(外部評価) 介護計画は、利用者や家族の意見を反映して作成している。介護記録から、介護計画の基盤となるモニタリングに力を入れていることが分かる。計画内容は利用者により異なるが、計画を簡素化し分かりやすくするように配慮している。日常業務と介護計画とを明確に区分している点も、介護計画が分かりやすい要因である。書式にも重要なことが把握しやすいように工夫が見られ、キャリアが感じられるモニタリングである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 計画書に添った介護記録を個別に取り、生活様子、健康状態、本人の言葉、エピソード等を記録している。定期的（3カ月毎・入院時には）介護計画の評価を行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じて通院、リハビリ、マッサージ、送迎など柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の民生委員、地域のサロンとの交流を行い、意見を交換する機会を設けている。サロン交流ではおやつ作り、食事作りを一緒に楽しまれている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医があり、毎月往診を受けたり、受診して いる。必要に応じて家族の希望する病院を受診したり 専門医院を受診している。	
			(外部評価) 事業所の協力医が在宅医療に熱心で、日々の生活を意 識した医療が提供されている。専門医の受診や家族の 希望するかかりつけ医を受診することができる。往診 が受けられるメリットを含め、協力医をかかりつけ医 としている利用者が多い。協力医はこれから重要とな る終末医療に対しても正面から取り組んでいる診療所 で、心強さが感じられる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 協力医療機関の看護師より毎週健康チェックを受け、 必要な注射、血糖測定、点滴を受けている。体調変化 (状態)を伝え、指示を受け対応している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には病院に情報提供を行っている。面会にも行 き、本人の状態を見て職員に伝えている。退院後、医 療機関での情報提供を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に施設の方針を説明し、同意を得ているが、重 度化した場合は、再度本人、家族の協力、医師、看護 師、職員が連携を図り、安心して終末期を迎えられる よう話し合いを行い、取り組んでいる。	
			(外部評価) 事業所では、「利用者の終の棲家でありたい」との思 いで、看取りを行っている。看取りは、信頼できる協 力医の協力体制があるとはいえ、管理者や職員の思い が深くないと実現することができない。また、家族等 の積極的な協力もあり看取りの実践が可能となってい る。「課題は毎回ありますが、介護に後悔したくない です」という管理者と職員の思いは同じで、利用者の 生活の延長に看取りを見据えている。	今後、グループホームでの看取りは重視して行く必要 がある。特に医療機関が手薄な地域においては、直視 して行かなければならない課題である。その先駆的な 取り組みをしている事業所であることから、事例を事業 所内で留めることなく、研修課題としてグループホー ムのあり方を問う役割を担っていくことを期待した い。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年1回、全職員が救命救急法を受講している。緊急時マニュアル、連絡網を作成し、対応できるようにしている。消防署による応急手当研修会にも参加し、身に付けている。今年度AED設置済み。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に防災訓練を実施して、地域の方、消防署、推進員との訓練を行い協力体制を築いている。昼夜を問わず施設内の点検を行っている。消火器の点検を行っている。備品、食料品を備蓄している。11月に地域・家族との合同訓練を予定している。 (外部評価) 災害時の避難訓練は回数を重ねており、地域住民との連携も堅固になってきている。特筆すべき点は、訓練の度に、避難の難しさから火災等の人災は起こすべきではないと言う思いを新たにしていることである。ついルーチン化しがちな訓練であるが、職員の利用者の命を守るという使命を再認識する機会としており、真摯に取り組んでいることが伺える。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人の人格を尊重し、プライドを傷つけないようなさりげない言葉かけをする。ゆうなぎ理念・行動目標を念頭に支援している。 (外部評価) 「男性職員が多くなったことで、声かけの難しさと重要性を再認識させられています」という管理者は、声かけを介護のスタートとして大切にしていることが伺える。また、利用者を尊重することが介護の目的であることを表している。職員の経験値に驕ることなく、利用者の人格の尊重が守られているかどうか、利用者の反応を基準として確認し、サービスを提供している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者一人一人に声かけし、無理強いせず自己決定出来るよう、声かけ、支援している。難聴の方はボードを使用し、意思疎通困難な場合は表情をくみ取って自己決定が出来るよう働きかけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の流れは決まっているが、一人一人の体調に配慮しながら本人の気持ちを尋ねたり、相談しながら過ごして頂いている。希望によって外出・外泊・散歩・昼寝・買物など各自過ごされている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行きつけの美容室に行かれ、パーマや毛染めをされている。行かない方はホームで行っている。洋服は、自分で決められる方は決めて頂いている。本人の気に入っている物も有り、おしゃれをされる方もある。出来ない方は身だしなみを支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員と入居者が同じテーブルを囲んで話をしながら食事をしている。畑で収穫できた野菜を食べたり、誕生日には本人の好きな食事を出している。外食時など好きなメニューを決めて頂いている。出来る方は食事準備、片づけを手伝って頂いている。 (外部評価) 食事は「男性職員が苦勞する点です」と管理者は笑っているが、話から利用者に調理の手解きを受けている職員の姿を目に浮かべることができる。男性職員の調理が上達することを管理者以上に楽しみにしている利用者がいることは、事業所での生活に生き甲斐を見出し、食事を楽しみにしている証拠である。現在は、独り立ちしている職員の調理の腕前を見せてもらったが、調理する職員を嬉しそうに見ている利用者の周りには、穏やかな時間が流れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 各自の健康状態を考慮して食事量、薄味（減塩）、刻み食、お粥、トロミ（水分）を使い工夫している。一人一人の摂取量（食事、水分）は、記録している。本人の好きな物、嫌いな物、習慣で摂られていたものを配慮し、個別に対応している。午後からの水分補給や入浴後の水分補給をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行い、本人の能力に応じて介助している。歯間ブラシ、スポンジなど個人に合わせて使用している。週1回ポリデントを使用し義歯パックを洗浄している。歯ブラシ、コップは毎日消毒。夜間時、義歯は外して休んで頂いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中はトイレに排泄を促す事を基本としている。トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ、尿取りなど、本人に合わせて使用している。利用者の行動を読み取り、トイレ誘導したり、一人一人の排泄パターンに応じた誘導をする事により、トイレで排泄出来るよう、支援している。夜間時は、必要に応じてポータブル、トイレ誘導、尿取り交換を行っている。 (外部評価) 夜間は利用者の就寝時間を重要視して排泄支援をしている。利用者の状況に合わせて、ポータブルトイレや尿取りパットなどを使用したり、トイレ誘導をしたりする支援を使い分けている。排泄の自立支援を柔軟に対応していることが分かる。利用者が排泄を無事に完了したことを職員と一緒に密かに喜んでいる姿には、職員の配慮が感じられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェック表を活用し、自然排泄が出来るように、乳製品、食物繊維の物を摂ったり、体操、腹部マッサージ、散歩を行っている。排泄困難な方は主治医に相談している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 声かけをし、本人の希望を聴いているが、意思疎通困難な方は清潔を保つため介助している。一人ずつゆっくり入浴されている。今年度、特浴の設備を整えた。 (外部評価) 昨年、浴室に機械浴槽を導入し、利用者の状態に応じて安全に入浴することができるよう対応をしている。特に冬には利用者がゆっくり湯に浸かれるよう対応している。機械浴槽の導入により、職員の入浴介助に余裕ができ、利用者にもゆとりが生まれ、楽しい入浴支援ができている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えている。夜間時、不眠の時は、本人が落ち着けつる場所でゆっくり休んでもらえるように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 各自の薬の処方箋はコピーし、いつでも職員が確認できるようにしている。病状変化があった場合は、主治医に相談し、薬の変更時は申し送りノートに記入し共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人が出来る事をさりげなく声かけし趣味活動を楽しんでもらうように支援している。意思疎通困難な方に対しては、職員が優しく関わりを持ち、触れ合える時間を大切にする。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族の協力を得て外出・外泊される方もある。ドライブ、お花見、外食、買物に行かれている。出来る範囲で行事に参加している。 (外部評価) 事業所まで急な上り坂があるため、利用者が気軽に近隣に出かけることは難しいが、直ぐ隣が保育園で事業所の周りを散歩できるよう支援している。また、事業所にはワゴン車を始めとして車が3台あり、車いすの利用者も希望に応じて買い物等に遠慮なく出かけることができる。玄関はいつでも解放され、利用者がつい外出がしたくなる心憎い外出支援と言える。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ほとんどの方は管理できなくなっているが、管理できる方は自分で所持されている。職員に買物を頼まれたり、買物に行かれ支払される方もある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年賀状、暑中見舞いを出すときに、一言書かれる方もある。出来る方は自分で手紙を書き、ポストへは職員に頼まれる。電話をかけたりされる方もある。番号は職員が押してあげている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 食堂内に台所が一緒にあるため、五感を刺激し、食堂内の壁には季節に応じた飾付けや写真や日めくりを飾り、季節が分かるようにしている。その時期に咲いている花や観葉植物を飾っている。場所が分かるように大きな字で表示をしている。 (外部評価) リビングダイニングには大きなテーブルとソファが置いてあり、利用者全員が座ることができる。元学生寮の建物を改修している事業所は、廊下やホールにちょっとした空間があり、ソファを置いて利用者の居場所作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下、玄関先、いろいろな場所に椅子、ソファを置いている。食堂内は少し狭いが、皆が座れるようにソファを置いており、お話しできるように配慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には馴染みの家具を持ちこまれている方もある。家族の写真や造花を飾られたり、家族からのプレゼントを飾られている。お部屋が広いため家族が泊まれる環境も出来ている。 (外部評価) 居室は10帖と広めである。元学生寮の4人部屋だったためであり、改修の建物の恩恵と言って良い。車いすやポータブルトイレ等の福祉用具を持ち込んでも居室はゆったりとしており、介護も行いやすい。居室には自宅で使用していた馴染みの物を持ち込むことができる。全室南向きになっているため、明るく暖かな日差しが居室の中に入っており、過ごしやすい空間である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 各自に応じて、老人車、杖、車椅子、歩行器を使用されている。身体状況に応じて、ベッドの向きやポータの設置場所を考えている。転倒防止のため、床で休んで頂く方もある。2階への移動はエレベータを使用されている。自力で移動できるよう、段差をなくし、手すりを設置している。食堂内の移動も物をつたいながら移動してもらっている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893600027
法人名	株式会社フォースコーポレーション
事業所名	グループホームゆうなぎ
所在地	愛媛県喜多郡内子町城廻613-1番地
自己評価作成日	平成 25 年 9 月 5 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 10 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域とのつながりを大切にし、毎月サロンとの交流を行ったり、隣の保育所との交流も出来る範囲で行っている。 ・主治医との連携を図り、健康管理に十分気を付けている。 ・併設のデイサービスがあり、大きい行事の時には交流を行ないコミュニケーションを取っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

参道のような坂道を上がると保育園越しに桜色の建物の事業所が見え、山里の風情を色濃くした中に、事業所の桜色が優しく華やかな雰囲気を感じ出している。事業所のケアも外壁と同様に優しく、利用者の命をお預かりしているという厳しさもあり、専門職としての心構えが感じられる。事業所は事業形態の変遷はあったが開設後9年目を迎える。管理者とユニットリーダーは開設後からずっと勤務しており、ケア体制に「積み重ね」という深みを感じられる。勤務が長く続くことは人材を大切にしていることの表れである。事業所では利用者の終の棲家を目指しており、看取りケアの実践が不可欠と考えている。「経験は積んでも、その度に教えられます」という管理者の言葉には重みがあり、利用者の生活を充実させたいと真摯に取り組んでいる姿勢が伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
		○	3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ゆうなぎ

(ユニット名) 北 棟

記入者(管理者)

氏 名 緒方 久美子

評価完了日 平成 25 年 9 月 5 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 毎朝、朝礼で復唱を行っている。 廊下、各棟の目につく所に掲示して、職員が共有し、意識付けに繋げている。 (外部評価) 管理者だけでなく職員との話し合いの中にも「理念」という言葉があり、事業所の理念を介護の基本としていことが伺える。また、理念の実践の具体化のために、職員一人ひとりのスキルに合わせた目標を立て、利用者に接している。理念に掲げている「笑顔」を、職員はその奥深い意味を問いかけながら日々ケアに携わっている。理念の真意を追い求めている情熱を感じることができる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会に入っており、地域の行事にも出来るだけ参加出来るようにしている。 毎月サロン交流、保育所との交流を行っている。ゆうなぎの行事に地域の方も参加して頂いている。 ホームの周りが地域の方の散歩コースになっており、顔を合わせ挨拶をしたり、野菜を頂くこともある。 (外部評価) 過疎化や高齢化の波が押し寄せている中、地域の社会資源の役割を担っている事業所である。「近隣住民にはお世話になっているので」と管理者は言うが、事業所の催し物を地域行事にまで育てている活動は、地域と共に事業所を運営している思いが感じられる。職員と共に積極的に地域で活動していることが伺える。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 町内のグループホームと連携を図り、年に1度、認知症講演会を行い、好評を得ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 定期的に会議を行い、利用者の状況、現状を報告して いる。 講演会、運動会、ゆうなぎ祭り、救命講習会、感染 症、外部評価結果報告、認知症講演会、バーベキュー などを行っている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、民生委員、区長、保育 園職員、町担当者、地域包括支援センター職員等の参 加を得て開催している。参加者に普段の事業所を知っ て貰いたいと考え、利用者と一緒の昼食会などを同時 に開催する工夫をしている。また、参加者は利用者と 一緒に地域行事に参加し、職員の支援する姿への評価 は、利用者へのサービス向上に直結していると言え る。会議には認知症の講演会などを取り入れ、参加者 にも満足してもらいたいとの管理者の気持ち が感じられる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じて市町村との連携を図っている。推進会 議、内子町グループホーム連絡会に参加して頂いてい る。入居者の入退居時、更新時、介護計画書等を提出 し、情報を提供している。	
			(外部評価) 町内に7つのグループホームがあり、町担当者が利用 者の状況を把握しやすい数である。事業所の開設は早 く、町担当者と一緒に地域にグループホームという介 護スタイルを定着させ、相互の協力体制を築いてい る。事業所は、地域の社会資源としての役割を担って いる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 入居者の方が自由に生活出来るよう環境を整えてい る。日頃より拘束をしないよう職員同士が取り組み、 話し合いを行っている。安全面に配慮しながら自由に 生活出来るように心掛けている。研修に参加し、職員 会、カンファレンスで報告し、勉強会を行っている。	
			(外部評価) 事業所では笑顔と見守りで「身体拘束ゼロ」を実践し ている。「笑顔で安心を、見守りで安全を」をモッ トとして職員は介護サービスを提供しており、事業 所は開放的で利用者の笑顔からも確認することができ る。新任職員には研修制度があり、利用者にとって精 神的な拘束もあることを教え、声かけの重要性を認識 させている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 入居者に対しての言葉遣いや介護態度についての話し合いを行っている。小さな内出血、アザなど、ヒアリハットを提出し、カンファレンスにて全員で話し合い、改善に努めている。不適切な行動を見た時は、その場で職員同士で注意するように心掛けている。職員同士のコミュニケーションを図り、虐待のないケアに努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 家族からの要請がある時は管理者が対応している。今後必要時は、関係機関との連携を図っていきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には契約書の説明を行っている。利用者、家族の思いを聴いたうえ、事業所のケアに関する事、利用料金、起こりうるリスク、看取りに関する事、医療連携体制についても説明を行い、同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会時に意見、要望を聴くようにしている。家族会に参加して頂き、意見、要望を聴いている。介護報酬、契約変更時には家族に同意を得ている。 (外部評価) 管理者は、ある程度入居期間が過ぎると家族等からは意見がなかなか出ないことを長年のキャリアから承知している。職員から家族等に相談を持ちかけ、話しやすいよう努めている。管理者が家族から親身に話を聞いている姿から、職員は家族の話を傾聴することの重要性を学んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 代表者と直接職員が話す機会はないが、管理者を通して意見や、提案、要望を伝えている。改善できる所はしてもらっている。 (外部評価) 管理者は職員と同じ立ち位置で、現場でのケアを話し合うことを大切にしている。話し合いとは一緒に考えることであり、職員の意見を尊重している。新任職員にも話しやすいように対応しており、出された意見は集約して運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は現場に来る機会が少ないため、職員個々の努力や実績は把握されていない。人員の余裕がない為、有給は取れないが、希望休、時間外の支給はある。休憩を充分取れないことも多い。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 皆が研修会に参加出来るよう努力はしているが、人員が少なく余裕がない為、十分研修会に参加できていない。 資格取得のための支援をしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 代表者は機会が少ないが、管理者、職員は勉強会、運動会、グループホーム連絡会に参加し、意見交換を図っている。他の市町村の同業者との連絡を行い、情報交換を行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前には、自宅、病院等に事前調査に行き、面接を行っている。本人の生活状況、身体状況、服薬、家族関係などを聴きとり、出来る範囲で情報を得ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前にはセンター方式のアセスメントを渡し、記入して頂ける方には記入して頂いている。記入できない家族には、聞き取りを行い、本人、家族の要望を聴いている。職員にも情報を伝え、事前に話し合っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族の思いを十分に聴き、居宅のケアマネからの情報提供頂き、必要なサービスに繋げている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「笑顔で穏やかな暮らし」を理念にしている。職員は利用者と一緒に不安、喜び、楽しみなど本人の思いに共感し、理解している。利用者のペース、状態に合わせ、出来る事、好きなこと、馴染みの生活などを把握しながら、関わりを持つようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には、居室や別室でゆっくりお話しできるようにしたり、行事への呼びかけ、本人の状況を伝えたり、介護記録を見て頂いている。毎月お便りを書き、状況をお伝えしている。面会時は笑顔や言葉遣いに気を付けて対応している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 親戚、知人の面会や電話など、自由に出来るようにしている。出来る方は馴染みの美容室に行かれたり、自宅に帰り過ごされたり、敬老会に参加される機会もある。 (外部評価) 事業所での生活が長い利用者は、どうしても馴染みの人や場との関係は希薄になってくる。職員は、利用者が近隣住民や併設しているデイサービスの利用者との新しい馴染みの関係ができるよう取り組んでおり、親しむ機会を作るようにしている。デイサービスの利用者に積極的に話している職員から、利用者の馴染みを増やそうとする姿勢が伺える。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の顔なじみの関係は出来ており、助け合いながら仲良く自由に過ごされている。個人の性格を考慮し、気の合う利用者同士で過ごせる場面作りをし、利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて相談があれば家族に連絡している。年賀状、暑中見舞いを送っている。推進委員の協力をお願いし、継続して参加して頂ける方もある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃のケアの中で本人の思いを知ろうとしている。センター方式の「私の姿と気持ちシート」を利用し、本人の思い、不安、苦痛、願い事をききとり、本人の思いを知ろうとしている。意思疎通困難な場合は、家族の意見を取り入れている。 (外部評価) 何気ない日々の会話の中から利用者の生活歴を聞き取り、職員は自然な形で利用者の背景を踏まえて、イメージ像を深めるよう取組みをして、職員間で共有している。また、新任職員にも伝え、共有している。「重度化により言いたいことを言えない、言わない利用者が増えてきています」という管理者は、現状分析をした上で対応策を考え、利用者の思いや把握をするよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前に本人の思いや生活状況を家族に聴いたり、ケアマネより情報収集している。生活の流れをそのまま支援できるように取り組む努力をしている。自分の今までの馴染みの物は自由に持ち込まれている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の生活リズムを把握し、健康で安全な生活が出来るように努めている。個々の気付きノート、申し送りノートを活用し、職員全体が把握できるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、家族に思いや意見を聞いている。定期的にカンファレンスを行い、見直しを行っている。更新時期には本人、家族の思いを聴き、ケアプランを作成している。	
			(外部評価) 介護計画は、利用者や家族の意見を反映して作成している。介護記録から、介護計画の基盤となるモニタリングに力を入れていることが分かる。計画内容は利用者により異なるが、計画を簡素化し分かりやすくするように配慮している。日常業務と介護計画とを明確に区分している点も、介護計画が分かりやすい要因である。書式にも重要なことが把握しやすいように工夫が見られ、キャリアが感じられるモニタリングである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 計画書に添った介護記録を個別に取り、生活様子、健康状態、本人の言葉、エピソード等を記録している。定期的（3カ月毎・入院時には）介護計画の評価を行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じて通院、リハビリ、マッサージ、送迎など柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の民生委員、地域のサロンとの交流を行い、意見を交換する機会を設けている。サロン交流ではおやつ作り、食事作りを一緒に楽しまれている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医があり、毎月往診を受けたり、受診して いる。必要に応じて家族の希望する病院を受診したり 専門医院を受診している。 (外部評価) 事業所の協力医が在宅医療に熱心で、日々の生活を意 識した医療が提供されている。専門医の受診や家族の 希望するかかりつけ医を受診することができる。往診 が受けられるメリットを含め、協力医をかかりつけ医 としている利用者が多い。協力医はこれから重要とな る終末医療に対しても正面から取り組んでいる診療所 で、心強さが感じられる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 協力医療機関の看護師より毎週健康チェックを受け、 必要な注射、血糖測定、点滴を受けている。体調変化 (状態)を伝え、指示を受け対応している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には病院に情報提供を行っている。面会にも行 き、本人の状態を見て職員に伝えている。退院後、医 療機関での情報提供を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に施設の方針を説明し、同意を得ているが、重 度化した場合は、再度本人、家族の協力、医師、看護 師、職員が連携を図り、安心して終末期を迎えられる よう話し合いを行い、取り組んでいる。 (外部評価) 事業所では、「利用者の終の棲家でありたい」との思 いで、看取りを行っている。看取りは、信頼できる協 力医の協力体制があるとはいえ、管理者や職員の思い が深くないと実現することができない。また、家族等 の積極的な協力もあり看取りの実践が可能となってい る。「課題は毎回ありますが、介護に後悔したくない です」という管理者と職員の思いは同じで、利用者の 生活の延長に看取りを見据えている。	今後、グループホームでの看取りは重視して行く必要 がある。特に医療機関が手薄な地域においては、直視 して行かなければならない課題である。その先駆的な 取り組みをしている事業所であることから、事例を事業 所内で留めることなく、研修課題としてグループホー ムのあり方を問う役割を担っていくことを期待した い。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年1回、全職員が救命救急法を受講している。緊急時マニュアル、連絡網を作成し、対応できるようにしている。消防署による応急手当研修会にも参加し、身に付けている。今年度AED設置済み。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に防災訓練を実施して、地域の方、消防署、推進員との訓練を行い協力体制を築いている。昼夜を問わず施設内の点検を行っている。消火器の点検を行っている。備品、食料品を備蓄している。11月に地域・家族との合同訓練を予定している。 (外部評価) 災害時の避難訓練は回数を重ねており、地域住民との連携も堅固になってきている。特筆すべき点は、訓練の度に、避難の難しさから火災等の人災は起こすべきではないと言う思いを新たにしていることである。ついルーチン化しがちな訓練であるが、職員の利用者の命を守るという使命を再認識する機会としており、真摯に取り組んでいることが伺える。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人の人格を尊重し、プライドを傷つけないようなさりげない言葉かけをする。ゆうなぎ理念・行動目標を念頭に支援している。 (外部評価) 「男性職員が多くなったことで、声かけの難しさと重要性を再認識させられています」という管理者は、声かけを介護のスタートとして大切にしていることが伺える。また、利用者を尊重することが介護の目的であることを表している。職員の経験値に驕ることなく、利用者の人格の尊重が守られているかどうか、利用者の反応を基準として確認し、サービスを提供している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者一人一人に声かけし、無理強いせず自己決定出来るよう、声かけ、支援している。難聴の方はボードを使用し、意思疎通困難な場合は表情をくみ取って自己決定出来るよう働きかけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の流れは決まっているが、一人一人の体調に配慮しながら本人の気持ちを尋ねたり、相談しながら過ごして頂いている。希望によって外出・外泊・散歩・昼寝・買物など各自過ごされている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行きつけの美容室に行かれ、パーマや毛染めをされている。行かない方はホームで行っている。洋服は、自分で決められる方は決めて頂いている。本人の気に入っている物も有り、おしゃれをされる方もある。出来ない方は身だしなみを支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員と入居者が同じテーブルを囲んで話をしながら食事をしている。畑で収穫できた野菜を食べたり、誕生日には本人の好きな食事を出している。外食時など好きなメニューを決めて頂いている。出来る方は食事準備、片づけを手伝って頂いている。 (外部評価) 食事は「男性職員が苦勞する点です」と管理者は笑っているが、話から利用者に調理の手解きを受けている職員の姿を目に浮かべることができる。男性職員の調理が上達することを管理者以上に楽しみにしている利用者がいることは、事業所での生活に生き甲斐を見出し、食事を楽しみにしている証拠である。現在は、独り立ちしている職員の調理の腕前を見せてもらったが、調理する職員を嬉しそうに見ている利用者の周りには、穏やかな時間が流れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 各自の健康状態を考慮して食事量、薄味（減塩）、刻み食、お粥、トロミ（水分）を使い工夫している。一人一人の摂取量（食事、水分）は、記録している。本人の好きな物、嫌いな物、習慣で摂られていたものを配慮し、個別に対応している。午後からの水分補給や入浴後の水分補給をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行い、本人の能力に応じて介助している。歯間ブラシ、スポンジなど個人に合わせて使用している。週1回ポリデントを使用し義歯パックを洗浄している。歯ブラシ、コップは毎日消毒。夜間時、義歯は外して休んで頂いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中はトイレに排泄を促す事を基本としている。トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ、尿取りなど、本人に合わせて使用している。利用者の行動を読み取り、トイレ誘導したり、一人一人の排泄パターンに応じた誘導をする事により、トイレで排泄出来るよう、支援している。夜間時は、必要に応じてポータブル、トイレ誘導、尿取り交換を行っている。 (外部評価) 夜間は利用者の就寝時間を重要視して排泄支援をしている。利用者の状況に合わせて、ポータブルトイレや尿取りパットなどを使用したり、トイレ誘導をしたりする支援を使い分けている。排泄の自立支援を柔軟に対応していることが分かる。利用者が排泄を無事に完了したことを職員と一緒に密かに喜んでいる姿には、職員の配慮が感じられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェック表を活用し、自然排泄が出来るように、乳製品、食物繊維の物を摂ったり、体操、腹部マッサージ、散歩を行っている。排泄困難な方は主治医に相談している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 声かけをし、本人の希望を聴いているが、意思疎通困難な方は清潔を保つため介助している。一人ずつゆっくり入浴されている。今年度、特浴の設備を整えた。 (外部評価) 昨年、浴室に機械浴槽を導入し、利用者の状態に応じて安全に入浴することができるよう対応をしている。特に冬には利用者がゆっくり湯に浸かれるよう対応している。機械浴槽の導入により、職員の入浴介助に余裕ができ、利用者にもゆとりが生まれ、楽しい入浴支援ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えている。夜間時、不眠の時は、本人が落ち着けつる場所でゆっくり休んでもらえるように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 各自の薬の処方箋はコピーし、いつでも職員が確認できるようにしている。病状変化があった場合は、主治医に相談し、薬の変更時は申し送りノートに記入し共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人が出来る事をさりげなく声かけし趣味活動を楽しんでもらうように支援している。意思疎通困難な方に対しては、職員が優しく関わりを持ち、触れ合える時間を大切にしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族の協力を得て外出・外泊される方もある。ドライブ、お花見、外食、買物に行かれている。出来る範囲で行事に参加している。	
			(外部評価) 事業所まで急な上り坂があるため、利用者が気軽に近隣に出かけることは難しいが、直ぐ隣が保育園で事業所の周りを散歩できるよう支援している。また、事業所にはワゴン車を始めとして車が3台あり、車いすの利用者も希望に応じて買い物等に遠慮なく出かけることができる。玄関はいつでも解放され、利用者がつい外出がしたくなる心憎い外出支援と言える。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ほとんどの方は管理できなくなっているが、管理できる方は自分で所持されている。職員に買物を頼まれたり、買物に行かれ支払される方もある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年賀状、暑中見舞いを出すときに、一言書かれる方もある。出来る方は自分で手紙を書き、ポストへは職員に頼まれる。電話をかけたたりされる方もある。番号は職員が押してあげている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 食堂内に台所が一緒にあるため、五感を刺激し、食堂内の壁には季節に応じた飾付けや写真や日めくりを飾り、季節が分かるようにしている。その時期に咲いている花や観葉植物を飾っている。場所が分かるように大きな字で表示をしている。 (外部評価) リビングダイニングには大きなテーブルとソファが置いてあり、利用者全員が座ることができる。元学生寮の建物を改修している事業所は、廊下やホールにちょっとした空間があり、ソファを置いて利用者の居場所作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下、玄関先、いろいろな場所に椅子、ソファを置いている。食堂内は少し狭いが、皆が座れるようにソファを置いており、お話しできるように配慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には馴染みの家具を持ちこまれている方もある。家族の写真や造花を飾られたり、家族からのプレゼントを飾られている。お部屋が広いため家族が泊まれる環境も出来ている。 (外部評価) 居室は10帖と広めである。元学生寮の4人部屋だったためであり、改修の建物の恩恵と言って良い。車いすやポータブルトイレ等の福祉用具を持ち込んでも居室はゆったりとしており、介護も行いやすい。居室には自宅で使用していた馴染みの物を持ち込むことができる。全室南向きになっているため、明るく暖かな日差しが居室の中に入っており、過ごしやすい空間である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 各自に応じて、老人車、杖、車椅子、歩行器を使用されている。身体状況に応じて、ベッドの向きやポータの設置場所を考えている。転倒防止のため、床で休んで頂く方もある。2階への移動はエレベータを使用されている。自力で移動できるよう、段差をなくし、手すりを設置している。食堂内の移動も物をつたいながら移動してもらっている。	